

氏名	桂 瑠以 KATSURA Rui
所属	学生支援センター
職名	講師
学位	博士（人文科学）
専門分野	心理学
URL	
E-mail	akasaka.rui@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

社会心理学
メディア教育

Social psychology
Media education

主要業績

Akasaka, R., & Sakamoto, A. 2010 The effect of mobile phone use on friendship in school children: An examination of causality with a panel study. お茶の水女子大学グローバルCOE,13, 91-103.

赤坂瑠以 2010 アメリカの大学の学生寮視察調査—本学の学生寮への提案— 高等教育と学生支援, 1, 49 - 55.

赤坂瑠以 2010 子どもの暮らしの安全・安心～命の教育へ 袖井孝子・内田伸子(編) ミネルヴァ出版 40-45.

研究内容 / Research Pursuits

現在の研究内容としては、主に社会心理学の領域において、メディアの使用が使用者に及ぼす影響を検討している。具体的には、小学生から大学生を対象に質問紙調査を実施し、ネットいじめの実態調査、インターネットの使用がネットいじめおよび学校でのいじめに及ぼす影響の検討などの研究を行っている。これらの研究により、インターネット利用が児童生徒のネットいじめおよび学校でのいじめの加害・被害経験に及ぼす影響についてを明らかにし、さらに、ネットいじめおよび学校でのいじめを防止・低減させる要因を検討することを目的とする。

■ 教育内容 / Educational Pursuits

教育内容としては、主に心理学分野での教育活動を行っている。具体的には、お茶の水女子大学において「心理学実験演習」のTA、武蔵野美術大学において「教育心理学」、「教育相談論」の非常勤講師、平塚看護専門学校において「発達心理学」の非常勤講師を行っている。

■ 研究計画

インターネットの使用がネットいじめおよび学校でのいじめに及ぼす影響の検討研究は、共同研究として、総務省及び三菱総合研究所の助成を受け、現在実施しており、今後も継続していく予定である。また、今後の研究においては、これまでの研究知見を踏まえ、ネットいじめを防止・低減させる要因を検討していく予定である。具体的には、ネットいじめの加害・被害経験を低減させる要因としては、フィルタリングの導入やコミュニケーションのスキルを向上させることがネットいじめの被害の予防・低減になり、情報モラル教育、インターネットの特徴、法律についての理解がネットいじめの加害の予防・低減になるだろうと考え、これらについて実証的に明らかにしていく。

■ メッセージ

近年、子どもたちへのインターネットの普及によって、日本でもネットいじめの問題が指摘されてきている。特に日本では、携帯電話の普及が著しく、携帯電話を利用したネットいじめが数多く報告されており、ネットいじめが学校でのいじめを助長させる可能性も懸念されているため、早急な現状の把握や対策が必要と考えられる。しかし、ネットいじめについての研究は、国内外ともに少なく、ネットいじめといじめの影響関係を実証的に検討した研究はほとんど見られない。そこで、インターネットの利用がネットいじめおよび学校におけるいじめに及ぼす影響を実証的に検討し、これらのいじめを予防・低減させる取り組みを明らかにしていきたいと考えている。